

PRAEVIDENTIA DAILY (5月20日)

昨日までの世界：ギリシャは主役になれず、ドイツが主役でユーロが底堅い

昨日は、全般的に小動きの中、主要通貨はまちまちな動きとなった。ドル/円相場は、欧州時間にかけて世界的な株価の軟調や米長期債利回りの低下基調を受けて、一時 101.10 円と 2 月以降のレンジ下限を試す動きとなったが、その後、NY 時間にかけて米国を中心に株価が上昇したことや、米長期債利回りも持ち直したことから、再び 101 円台半ばに戻った。米長期債利回りの持ち直しの背景には、ロシアがウクライナ国境周辺の軍に帰還命令を出したとの報道が効いたかもしれないが、NATO 側はそうした事実が確認できないとしている。

ユーロは、対ドルで 13.37 ドル台前半の横ばい圏内の動きが続いているが、どちらかという強含みとなった。18 日のギリシャ統一地方選では Samaras 首相率いる新民主主義党 (ND) が苦戦する一方、財政再建に否定的な急進左派連合 (SYRIZA) が優勢なようだが、アテネで首位を取れないなど想定以上の勝利とはなっていないようだ。25 日に第 2 回投票が行われる。また、ECB 高官発言も、Mersch 理事からは 6 月緩和に前向きな発言 (6 月会合で行動する可能性が著しく高まった) が聞かれたものの、タカ派として知られる Weidmann ドイツ連銀総裁 (ECB のユーロ安誘導は反動を生む可能性も) や Nowotny オーストリア中銀総裁 (マイナス金利はまだ徹底的に議論される必要) からはタカ派的な発言が聞かれたことが、ユーロの底堅さに繋がっている。

ポンドは、米ファイザー社が英アストラゼネカ社買収額を引き上げたもののアストラゼネカが再度拒否したことから、下落する局面がみられたものの、その後対ドルで 1.6845 ドルへじり高となり、先週の BoE インフレ報告発表後の急落前の水準 (1.6870 ドル程度) に少しずつ戻ってきている。

豪ドルや NZ ドルは、NY 時間の米長期債利回りの反発や米ドルの強含みを反映して、対米ドルで軟調が継続している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.02	-0.02	+0.00	+0.02	+0.02	+0.01	+0.4	-0.6	+0.6	-0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.1	+0.01	-0.00	-0.02	-0.01	+0.01	+0.02	+0.1	+0.4	-0.3	+0.06
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.0	+0.03	+0.01	-0.02	+0.00	+0.02	+0.02	-0.2	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.3	+0.01	-0.01	-0.02	-0.05	-0.03	+0.02	+0.4	-1.1	+0.3	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.0	+0.02	+0.00	-0.02	-0.01	+0.01	+0.02	+0.4	-1.1	+0.3	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	+0.1	-0.02	-0.02	+0.00	+0.02	+0.02	+0.00	+0.4	+0.6	+0.3	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅 (%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：英ディスインフレーションでポンド高

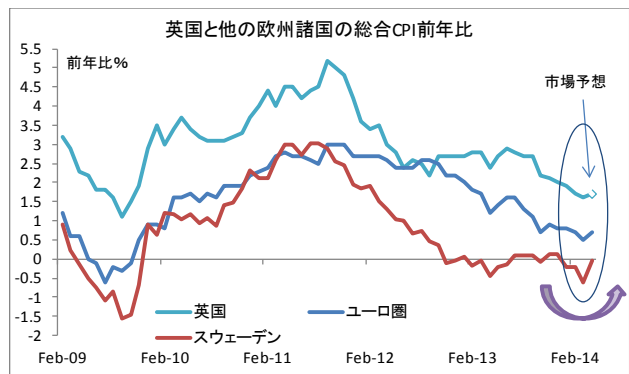
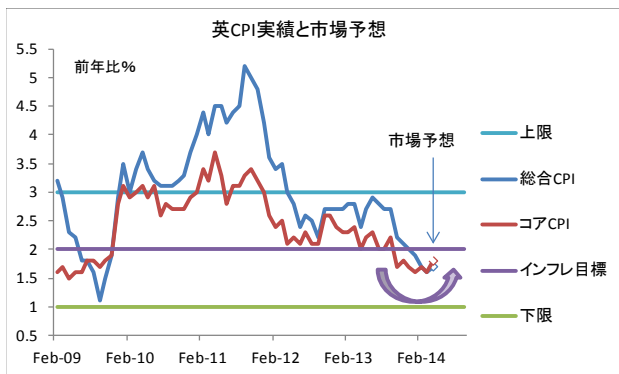
きょうの注目通貨：GBP↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 RBA 議事要旨	10 : 30			
Debelle・RBA 総裁補発言	11 : 30			金融市場担当
Jordan スイス中銀総裁発言	15 : 30			
英 4 月 CPI 前年比	17 : 30	+1.6%	+1.7%	
同・コア CPI 前年比		+1.6%	+1.8%	
Linde スペイン中銀総裁発言	23 : 30			
Plosser フィラデルフィア連銀総裁発言	1 : 30			タカ派、投票権あり
Dudley・NY 連銀総裁発言	2 : 00			ハト派、投票権あり
Bean・BoE 副総裁発言				

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は英 4 月 CPI が注目される。ユーロ圏やスウェーデンなど他の欧州諸国と同様に、前月から前年比伸び率が持ち直す見込みとなっている(下図を参照)。BoE 高官のポンド高懸念があるとすればインフレ下押しの観点だが、ポンド高でもインフレ率が下がらないということであれば、BoE は一般インフレ率(CPI)は気にせず、全般的な景気の堅調や住宅市場の過熱に相対的に焦点を当てることになる。このため、インフレ率の持ち直しは、市場予想程度であっても利上げ遅延リスクを後退させ、ポンド高要因となるだろう。

ドル/円は、昨日 100 円台へ続落していればレンジ相場からの脱却の可能性が高まったが、戻してしまったことから、引き続き 2 月以降の 102 円を挟んだ横ばい圏内の動きが続くとみられる。但し敢えて言えば、米景気だけでなく地政学リスクも反映する米 10 年債利回りの低下基調だけでなく、FF 金利引上げに関する期待を反映する米 2 年債利回りも低下基調が続いていることから、米国の早期利上げ開始期待が後退しているとみられ、ドル/円はどちらかという下落バイアスが強い状況だ。



ディスクレーマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641